

# 森におよぐ家

## House Floating in the Forest

今井 裕夫 船曳 悦子

Hiroo IMAI Etsuko FUNABIKI

### Abstract

This paper discusses the design process and concepts behind House Floating in the Forest. The small house is located on the southeastern border of the Aichi Prefectural Forest. The forest was established as a nature and recreational area within the city. As the house is situated in a residential area next to the forest, the location is close to being ideal. Along the north and west sides of the house, a narrow road lined by sparse foliage on one side and a line of cherry trees on the other, runs approximately 3 meters below the plot of land. To the south, an open space has been inconspicuously left for parking, but the surrounding foliage has been left untouched. Looking east from the second floor, the magnificent view of the surrounding foliage and Mt. Sanage in the distance combine to create the intended effect of a house floating across the forest.

Keywords：呼吸する床、呼吸する壁、結晶体、透過性

### 1. 概要

愛知県森林公園に抱かれるようにしてあるこの家は、1983年設計した「東山の家」に育った人の家である。その頃子供だった施主が成長して結婚し、親と隣接して住むこととなり、土地を買増し、離れ屋を作ることになった事の次第である。主屋の南側に斜面庭を挟んで隣れ家を配置し、コートハウスの形式を採用した。約二十年前とほとんど変わらないたたずまいのこの地域は、住宅地としては理想に近いものであり、周囲の森の気を室内に取り入れて自然や野性と一体化した空間構成を考え、内なる外部を家の中心に据え、そこから派生し流れていく空気の位相に呼吸する床と呼吸する壁を重ねて、空間を抽出する手法とした。

呼吸する立体としての家の中心に、採光と外気の逆巻く吹抜をSPACE COREとして据えた。内部のような外部であるこの空間を過るブリッジは、客間に至る露地としての意味を持たせた。

呼吸する壁はやがて、蔓性のテイカカズラやツキヌキニンドウ、ナニワイバラなどにより、緑の呼吸する壁としてイメージされている。敷地に沿わせた2階のデッキが三角形のフォルムとなり、舳となり森林公園の樹海にむけて漂う家の様相となった。



## [外部]

敷地南側は空地であり雑然と置かれた駐車場となっている為、長屋門的に塀を兼ねた閉鎖的壁面とし、通風、換気のための開口部のみを設けることとした。

2階バルコニーは、呼吸する壁としての目かくし塀を付設し、塀の上部に垣間見える雑木林と空以外は、視界をさえぎりプライバシーを確保している、

西側は接道面であり、GLより2.5m下がった道路と接している。このB1階はエントランス アプローチと駐車スペースとし、陶質レンガ敷とした。1階壁面での呼吸する壁と2階デッキの呼吸する床による採光はB1階でありながら清浄な気流の漂う空間とした。

1階は開口部を設けず、2階には森林公園との空間のシーケンスをはたすため、大開口部とし、直截的な視線をさけるため、敷地境界に沿って舳のようなデッキを設けた。

北側は主屋南側の庭に対面し、この庭を中庭として位置づけ、大きな開口部により庭との一体化を計った。中庭は主屋（1983 今井裕夫設計）完成時に作庭されておりタケとハギ、ススキ、クヌギ、シラカシ、イブキで構成されている。2階デッキの手摺は1.1mの高さとし、庭木のクヌギの枝が手摺にかかり、空間として連続性を形成している。

東側は、1階は、道路に沿っており、通気のためのスリット状の窓のみである。2階は雑木林の樹海の彼方に猿投山が見え。LDKはワイドな窓によりこの風景を切りとっている。

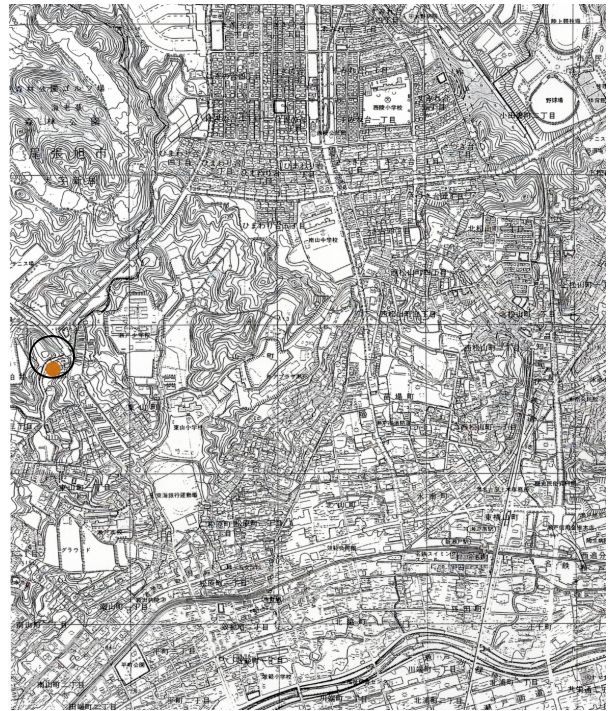
2階デッキを挟んでLDKと寝室は空間的に東西を貫いている。四方から雑木林が迫り樹海を漂うようなフォルムのこの家は“森に泳ぐ家”と命名された。

## [内部]

B1階は、道路面からアプローチと駐車スペースで陶質レンガが敷き詰められ、玄関への階段は50×50角の磁質タイル貼としている。内壁は、擁壁、土留のコンクリート打放し仕上の壁である。2階デッキ床と1階南側、北側壁からのハイサイドライトにより採光と通風がある。

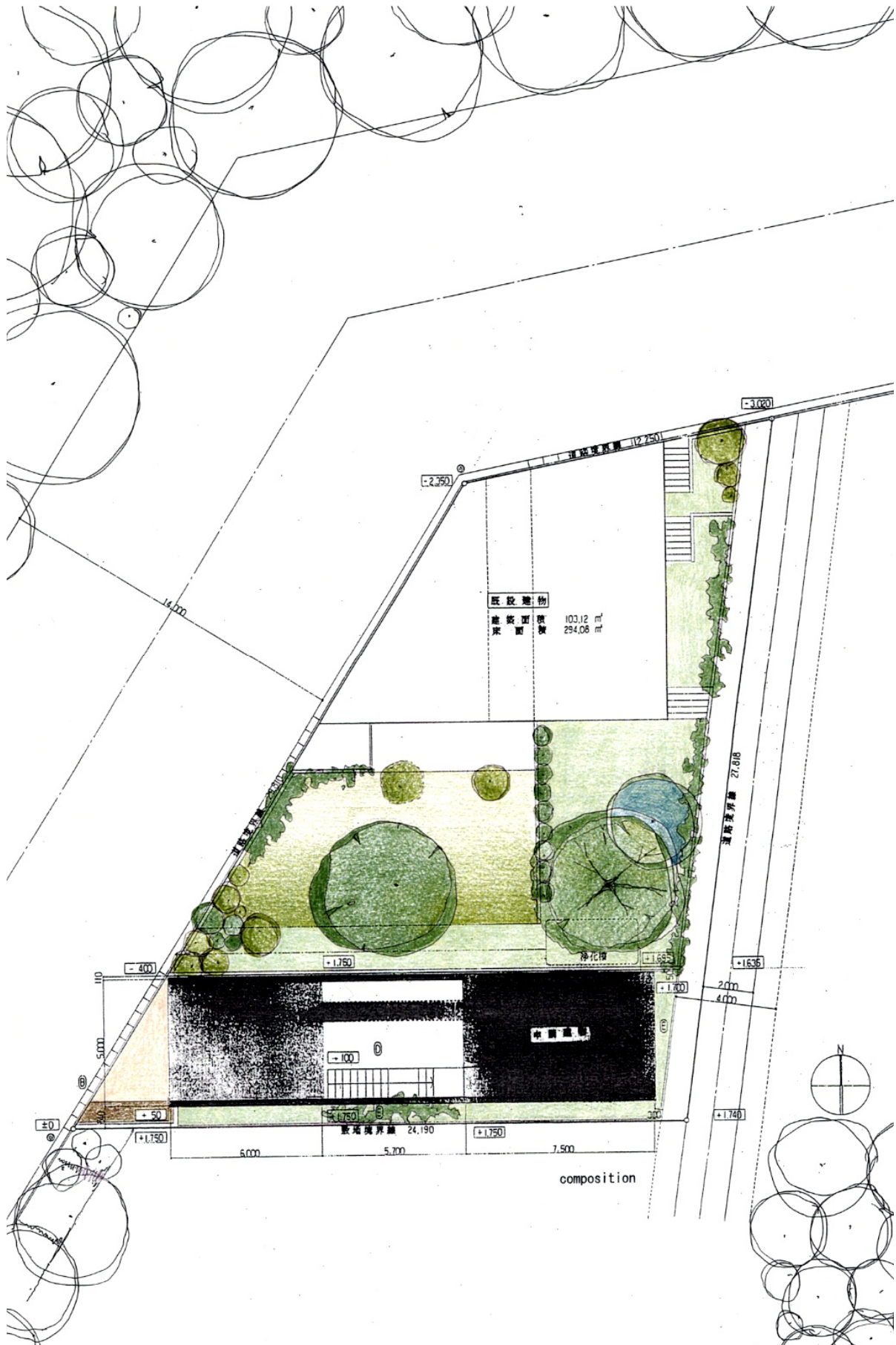
1階は、玄関、浴室、予備室のある東棟と客室（和室、炉有）、納戸の西棟が吹抜により分断されているが、客室への露地としての意味をもたせたブリッジにより繋がっている。ブリッジの架かる吹抜は北側の主屋の中庭との連続をはたし、南側は呼吸する壁による採光を確保している。

2階は、東棟LDKにワイドなガラス窓を設け、2階中央デッキの間口部と西側デッキの間口部により空間を連続させ。猿投山が見える東側の修景と森林公園の森につながる西側の修景が貫かれた透過性の空間を構想した。

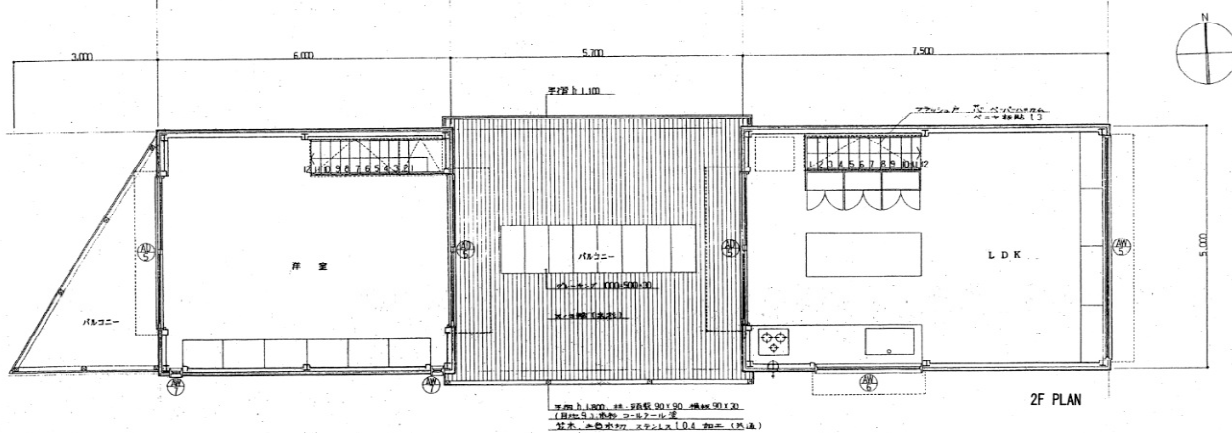
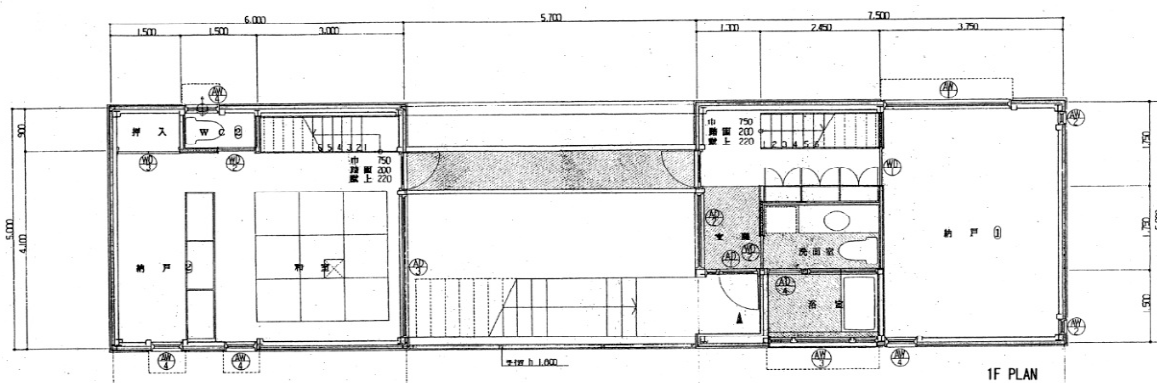
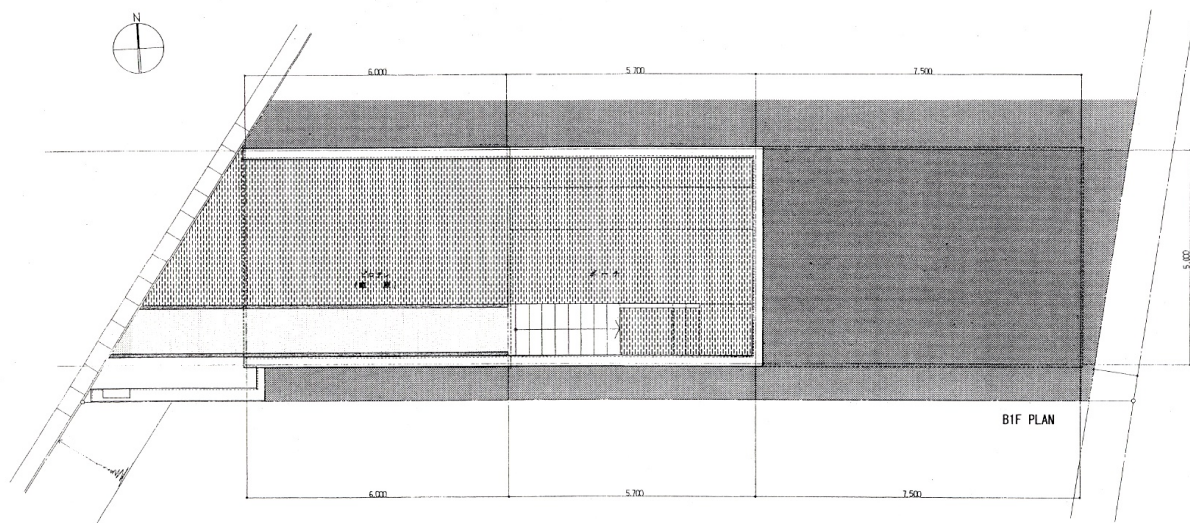


周辺の気配を 閑かに受容し  
 緑を包摂させるようなコア  
 清浄な空気の充ちる中庭  
 日常の中に緑の気を忍び込ませる  
 閑雅な緑の結晶体としての中庭  
 中庭を抱えて気配が溶け合う  
 豊かな空っぽ  
 垣根から揺らめく気  
 やわらかくて厚い壁  
 うすくて硬い壁  
 外に閉じて内を開く  
 錯綜する内部空間と外部空間  
 樹々の位相レベルの修景  
 森の潤いを抱きかかえる  
 緑のふところ  
 内から望む360°の緑  
 森林公園の樹海に向かう 舶先のようなバルコニー  
 各部屋を距離を保ってつなぐブリッジとテラス  
 差し込む光に誘われるアプローチ  
 移り変わる陽の光を照らすスクリーンとしての外壁  
 森の湿度が通り抜ける バルコニー 寝室 テラス LDK  
 駐車スペースから吹き上げる緑の風 テラスからこぼれる光  
 線の気配が突き抜ける 細長い家  
 インテリアとエクステリアの曖昧な構成  
 内にいながら外を意識することができる空間

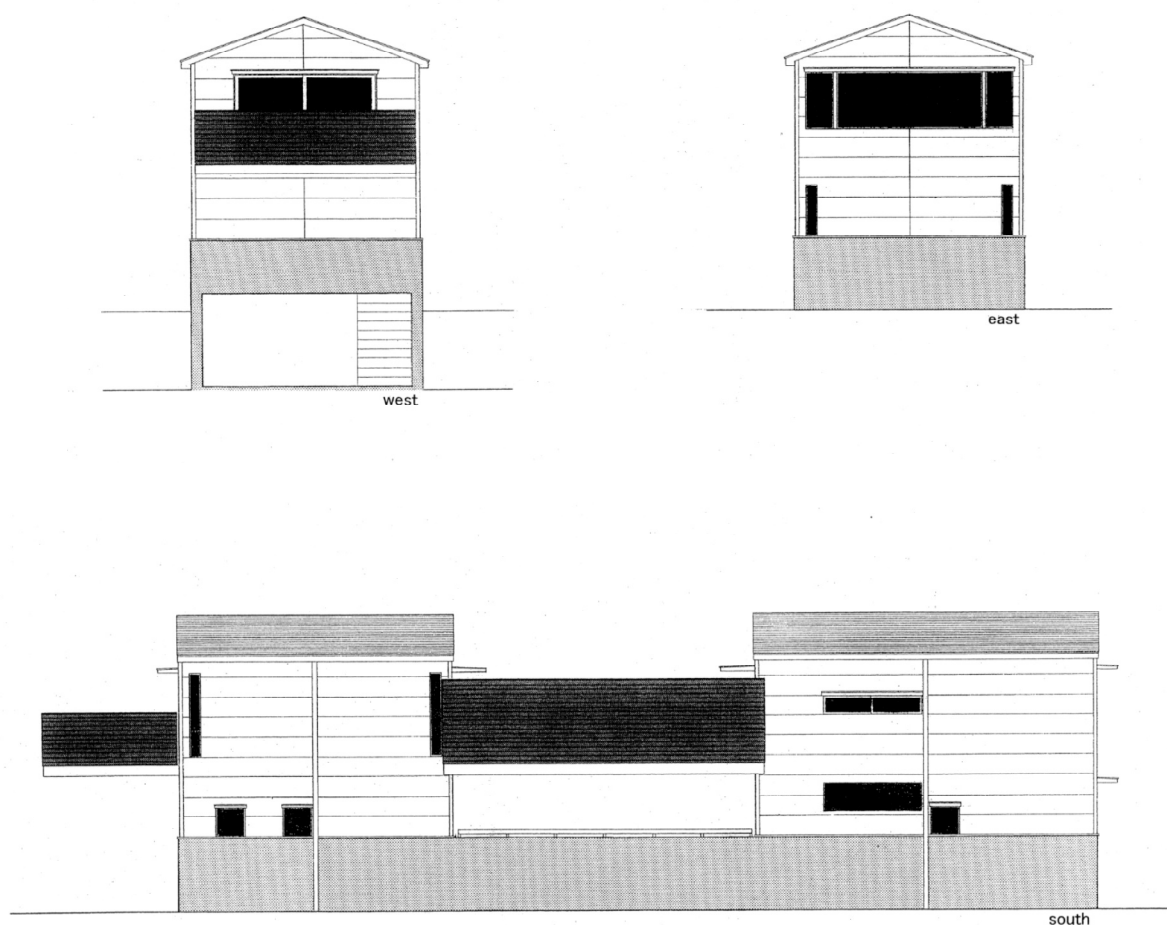




## 森におよぐ家



## 森におよぐ家



主な用途：専用住宅

敷地面積：441.14㎡

建築面積：67.50㎡(170.62㎡)

延床面積：165.00㎡ (459.08㎡)

建築面積・建蔽率：170.62㎡・38.7%＜50.00%

延床面積・容積率：459.08㎡・97.3%＜200.00%

各階面積：地下1階 30.00㎡

1階 67.50㎡

2階 67.50㎡

規模：地上2階地下1階

高さ：最高高さ 7.031m 軒高 6.106m

構造：鉄骨造

地域地区：第1種低層住居専用地域

道路幅員：北側・西側14m

外部仕上：屋根 カラーステンレス貼 t 0.4

外壁 押型成型セメント板 t 50

コンクリート打放し

開口部 アルミニウム製サッシ

内部仕上：床 ナラフローリング t12

壁 石膏ボード t12 下地 クロス貼

天井 石膏ボード t9.5

電気設備：受電方式 低圧受電

空調設備：冷暖房方式 空冷ヒートポンプ方式

衛生設備：給水 上水道直結・井戸

給湯 ガス湯沸器暖間式

排水 下水道直結

(提出期日 平成16年11月26日)



